

令和4年10月31日
(2022年)

保護者の皆さまへ

吹田市立第六中学校
校長 須藤 渉

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、2学期始業式に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表すると聞いています。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学と理科に限られています。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法へと工夫改善にも取り組んでまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

- 国語・・・『知識・技能』の観点については、平均正答率が全国値を上回り、『思考・判断・表現』の観点については、全国値をやや下回っている。

《各内容における成果と課題、指導改善のポイント》

『知識・技能』

言語の特徴や使い方に関する事項

- ・平均正答率は全国値を上回っており、特に「表現の技法について理解する」ことでは、全国値を大きく上回った。「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」ことについては、無解答率も高く課題がある。

情報の扱い方に関する事項

- ・「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことでは、無解答率が高く課題が残る。

我が国の言語文化に関する事項

- ・「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する」ことでは、全国値を上回ったものの、行書の特徴や読みやすい書き方についての理解には課題がある。

『思考・判断・表現』

話すこと・聞くこと、書くこと

- ・記述式問題での無解答率が高いことが、課題である。

読むこと

- ・「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」ことでは、全国値を大きく上回り、無解答も無く、良好な結果であった。

国語における成果と今後の改善点について

『知識・技能』については、日常的な小テストをはじめとする反復学習による定着がうかがえる。自分の考えが伝わるように、表現を工夫して話したり、根拠を明確にして記述したりすることが課題である為、今後は、聞き手や読み手を意識し、表現できる力を育成することに努めます。

- 数学・・・全ての領域で全国値を上回り、良好な結果でした。
《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と式

- ・全項目で全国値を上回り、「知識・技能」、「思考・判断・表現」どちらの力においても定着がみられる。

図形

- ・全項目で全国値を上回る結果となり、良くできている。「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」の項目においては他の問題と比べると正答率が低く無回答率は半数近い。

関数

- ・全項目で全国値を上回っているが、「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」の無回答率が全国値より高かった。

資料の活用

- ・ほとんどの項目で全国値を上回っているが、「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」の項目は全国値を下回った。

数学における成果と今後の改善点について

どの領域においても全国値と比べて正答率が高く良好な結果だった。しかし、図形分野の正答率が半分を切っており課題が見られた。また、数学的な見方や考え方を言葉にして説明したり、文章で表したりする問題も正答率が低く、無回答率も高く課題として挙げられる。少人数の授業等も活用して改善を図っていく。

- 理科・・・「エネルギー」「粒子」「地球」の領域については全国値を上回り、「生命」の領域については全国値をやや下回っている。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

エネルギー

- ・「力の現象」では全国値より大きく正答率を上回っていた。結果をもとにグラフを作成する力は身についていた。実験を計画する力について問われる内容の正答率は全国値より良いが無回答が多く、課題が見られた。

粒子

- ・選択式の問題においてはすべて全国値より正答率は上回った。知識をもとに判断することが問われる設問では全国値より正答率が低く、課題が見られた。

生命

- ・記述問題が多く、知識をもとに予想・考察し、自分の考えたことを文章表記することに課題が見られた。2種類の生物の共通点・相違点など、事実を文章表記する項目についてはできていた。

地球

- ・「知識・技能」の観点では全国値より大きく上回っていた。天気図や地形図などの読み取りには課題が見られた。

「知識・技能」の観点では全国より大きく上回っており、小テストをはじめとする反復学習による定着がうかがえる。しかし、全体として記述問題の正答率は全国値より低く、結果をもとに考察する力や自分の考えを説明することが苦手な生徒も多いので、レポート課題や話し合い活動を通じて、苦手意識をなくせるように改善していきたい。

2 質問紙調査の結果について

【基本的な生活習慣について】

朝食は8割以上の生徒が毎日とっており、起床・就寝の時刻についても80%以上の生徒が決まった時間に生活できていると回答している。

【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感など】

「失敗を恐れなくて挑戦していますか」に関しては全国上回ったが、「自分で決めたことは、やり遂げる」に関しては全国を下回った。「いじめは、どんな理由があってもいけない」に関する肯定的な回答は全国を上回った。

「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」は全国をやや下回った。

【学習習慣、学習環境について】

自分で計画を立てて勉強をする割合は全国をやや上回った。平日に3時間以上勉強する生徒・土日に4時間以上勉強する生徒は全国を上回ったが、平日・土日ともに1時間以上4時間未満になると全国を下回っていた。

【1・2年生時の授業について】

「課題の解決に向けて自ら取り組んでいた」「学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていた」「自分にあった教え方・教材・学習時間になっていた」「よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた」という項目については全国をやや上回った。

しかしながら、「発表時に自分の考えが伝わる工夫があった」「自分の思いをもとに作品や作文などの新しい物を作り出す活動を行っていた」の項目については全国を下回った。

3 今後の取り組み

基本的な生活面（朝食摂取・決まった時間の起床就寝）は各ご家庭での協力があり、確立できています。

学習面においては、全国平均と同じか上回る結果であったので、基礎的な部分の習得はできていると捉えられる。各教科のアンケートにおいても「授業の内容はわかる」と回答した生徒は全国を上回っていました。

各教科において「学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」「国語・数学・理科の授業は大切だと思いますか」に関して全国を下回っていたことから、単に知識を与えるだけでなく、学ぶ意味や目的・学習の活用方法を丁寧に指導し、学習の定着を図っていきます。

また、学習時間において平日・土日に「全く勉強をしない」「1時間より少ない」と回答した割合が約30%でした。定期テスト前だけでなく普段の学習の必要性を教科指導や日常の関わりの中で指導していき、学力の向上につなげます。放課後の時間で一番多かったのは「TV・動画視聴・ゲーム・SNS」の時間でした。次に多かったのはクラブ活動の時間です。自分の趣味の時間や、全国的に激減している「読書」の時間に充てるなど、自己をリフレッシュしたり、高めたりする時間の使い方ができる情報を発信していきます。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。